

令和 年度  
弱視教育支援の記録

# ひとみ

学校名	
氏名	
担任名	
保護者名	
盲学校担当者名	



## 「ひとみ」の使い方

「ひとみ」は、弱視児の支援ツールです。

弱視児が学校生活を送る上で必要な 11 項目の内容について網羅できるようになっています。「ひとみ」の各項目を記入しながら、視覚・各教科・補助具活用の実態や必要な配慮、自立活動の目標や内容について整理しましょう。

記入にあたっては、保護者からの聞き取りや、盲学校の支援を活用し、連携を深めましょう。

「ひとみ」用紙は盲学校 HP よりダウンロードできます。適宜ページを増やすことができます。

### ■校内での活用例

- ・日々の授業での具体的な配慮に活用します。
- ・自立活動の内容の設定や補助具活用スキルの確認に活用します。
- ・教員間での共通理解のツールとして活用します。  
小学校では…交流学級や学年、校内教職員間で  
中学校では…教科担任間、交流学級や学年、校内教職員間で
- ・進級や進学の際の引き継ぎ資料として活用します。  
進学にあたっては、保護者の了解のもと、次年度在籍校へ引き継ぎましょう。
- ・次年度の教育課程編成の資料として活用します。

### ■保護者との共通理解

年度のはじめとおわりに、保護者と記入事項についての確認を行います。

年度末には、「ひとみ」をコピーし、保護者に渡しましょう。

### ■盲学校との連携

支援要請の際、具体的な項目をあげ、効率的に支援を受けます。

支援を受けた内容はその都度コピーし、担当者と共有します。

年度末には、「ひとみ」をコピーし、担当者に渡しましょう。

# もくじ

## ひとみの使い方

- ①視覚状況
  - ②文字環境
  - ③補助具
  - ④教室環境
  - ⑤教育課程
  - ⑥教科指導の配慮
  - ⑦学校生活の配慮
  - ⑧自立活動
    - 目標設定
      - 単眼鏡      年少弱視児基礎訓練  
                 年少弱視児応用訓練  
                 広角視野訓練
      - 近用レンズ   年少弱視児基礎訓練  
                 年少弱視児応用訓練  
                 広視野空間探索訓練
      - 拡大読書器
  - ⑨障害理解
  - ⑩盲学校の支援の記録
  - ⑪その他・特記事項・担任より
- 
- 付録 1   日常的に体験する照度
    - 2   座席位置と視力の関係
    - 3   弱視児の読書速度
    - 4   弱視学級備品
    - 5   参考になる書籍

### ①視覚状況について【記入上の注意事項】

- 「視力」「最大視認力」「視野」「色覚」「眼球運動」等の視覚の実態について、保護者を通じて医療機関と連携し、記入します。医療機関での検査結果用紙のコピー等の提供を受けられる場合、保護者の許可を得、一緒に綴じて保管し、活用します。
- 「眼科」「手帳」「診断名」は、保護者からの聞き取りや、医療機関からの情報をもとに記入します。受診頻度、眼疾患の特性、学校生活における配慮事項等も丁寧に聞き取ると良いでしょう。
- 視力…遠距離視力は5m、近距離視力は30cmで測定された値を記入します。眼鏡をかけている児童生徒は、裸眼の値の後のカッコ内に眼鏡をかけた値を記入します。
- 羞明…まぶしさによる見えにくさがある場合「有」に○をします。
- 眼鏡…眼鏡をかけている場合、「有」に○をつけます。詳しくは、「③補助具」の欄に記載します。
- 最大視認力…近見視力視標で識別できる最小の視標とそのときの視距離を記入します。弱視児が至近距離で文字等の読み書きをする際の視認力の参考にします。
- 視野…「視野狭窄」「中心暗点」等の見えにくさがある場合には、それを記載します。検査結果用紙の提供を受けられる場合、保護者の許可を得、視野検査結果用紙を添付します。
- 色覚…色の感じ方について、診断名がある場合に記載します。
- 眼球の様子
  - ①眼振の有無と、眼振がある場合にはどういう時に揺れるのかを記入します。
  - ②目の動きの様子を記入します。「目だけで対象を追えるかどうか」「動きの滑らかさ」「左右方向・上下方向・円運動に差があるか」「探索の様子」「追視範囲」「注視時間」等の観点で観察します。
  - ③眼球の外見上の特徴（斜視、眼位のずれ、白濁等）があれば記入します。
- 医療機関や保護者からの情報をもとに視覚の実態を把握し、学校生活における環境の整備や指導上の配慮、自立活動の内容・方法に活かしていきます。

## ①視覚状況について

遠距離視力（ 年 月 日実施）			
（      ） LUX		（      ） LUX	
両	（      ） / m	両	（      ） / m
右	（      ） / m	右	（      ） / m
左	（      ） / m	左	（      ） / m
近距離視力（ 年 月 日実施）			
（      ） LUX		（      ） LUX	
両	（      ） / cm	両	（      ） / cm
右	（      ） / cm	右	（      ） / cm
左	（      ） / cm	左	（      ） / cm
羞明	有・無	眼鏡	有・無
最大視認力	（      ） / cm（右・左）		
視野（ 年 月 日実施）			
右目			
左目			
簡易（両）			
色覚			
眼球の様子			
眼科			手帳
診断名			

## ②文字環境について 【記入上の注意事項】

- 「MN-READ検査」「読速度測定」は、各学校で丁寧に測定し、記入します。測定の仕方がわからない場合、盲学校に支援を求めましょう。
- MN-READ検査…一番見やすい文字サイズを測定する検査  
臨界文字サイズ…一番見やすい文字サイズ  
最大読書速度…臨界文字サイズで文字が提供されたとき、1分間に最大何文字読めるかを表します。  
読書視力…なんとかぎりぎり読める文字サイズ
- 読速度測定…実際に一番早く読める文字サイズを測定する検査  
3種類程度のポイント数で作成した読み材料を準備し、1分間にそれぞれ何文字読めるか測定します。  
筑波大学附属視覚特別支援学校LVCの作成した視標を使用すると便利です。<http://www.lv-club.jp/>
- 教科書…現在の学年で使用している教科書を記入  
通常サイズの教科書を使用している場合、「p t」欄には「通常」と記載します。  
拡大教科書を使用している場合、拡大教科書出版元、ポイントサイズを記載し、次年度の教科書サイズをどうするか、上記検査および①の視機能評価に基づいて検討します。低学年のうち、学習効率の点から、補助具類を使用しない状態でも把握しやすい最適文字サイズでの提供が良いでしょう。学年進行とともに補助具の活用力を向上させ、結果として拡大率が下がっていくことが望ましいですが、様々なことを考慮して決定する必要があります。  
「補助具を正しく使いこなせるか」「拡大率を下げたことで学習効率が下がらないか」「弱視学級での個別授業に使用する教科書か、一斉授業の中で使用する教科書か」「一斉授業についていける読み速度か」「教科の特性」等です。
- プリントやテストの文字サイズ  
上記2種類の検査結果や、次年度の教科書の方針等から、日常的に使用するプリントやテストで提供する文字のサイズを決定し、記入します。

## ②文字環境について

MN-READ検査（ 年 月 日実施）				
視標	白地に黒文字	黒地に白文字		
臨界文字サイズ	p t	p t		
最大読書速度	文字／分	文字／分		
読書視力	p t	p t		
読速度測定				
年 月 日			年 月 日	
p t	文字／分	白地・黒地	p t	文字／分 白地・黒地
p t	文字／分	白地・黒地	p t	文字／分 白地・黒地
p t	文字／分	白地・黒地	p t	文字／分 白地・黒地
p t	文字／分	白地・黒地	p t	文字／分 白地・黒地
教科書について				
教科	原本	出版元	p t	次年度の方針
【  】				
【  】				
【  】				
【  】				
【  】				
【  】				
【  】				
【  】				
【  】				
【  】				
プリントやテストのポイント数			p t 白地・黒地	

### ③補助具 【記入上の注意事項】

■眼鏡…有無に○をつけます。

眼鏡の処方がある場合、保護者の承諾を得、コピーをもらい、「ひとみ」に添付します。処方箋を見て、種類に○をつけ、作成日を記入します。視力や度数は成長に伴い変化していく場合があるので、定期的に検診を受け、その時の見え方に合わせた眼鏡を作成することが必要です。

■遠距離・近距離、それぞれのものを見るときに使う補助具について整理して記入します。

■スキル…その補助具を活用するスキルが

十分にある ◎

練習中 レベルを記入（「⑦自立活動」参照）

スキルなし ×

必要なし 不

■メイン…授業中に主に使用している機器の欄に○をつけます。

複数の補助具を常に備え、状況によりそれぞれを使いこなしている場合、当てはまる欄（複数）に○をつけます。

■メーカー、倍率、ライト、個人持ち／学校備品の別

補助具ごとに、「名称」、メーカー、倍率、ライトの有無や種類、個人持ち／学校備品の別等、必要事項を記入します。

例) スタンドルーペの場合…

「パワーラックス」 エッセンバッハ製 5倍

LEDライト付き（ウォームライト） 学校備品

■白杖…必要性に応じ、「常に必要」「暗所で使用」「慣れない場所で使用」「必要なし」に○をつけます。

■その他・特記事項…特記事項等がある場合に記入します。機器購入の際の代理店や、購入年度、個人持ちの場合「日常生活用具給付制度（身体障害者手帳による）」の活用の有無等を記載します。

\*拡大読書器は高額な機器ですが、個人で購入する場合、身体障害者手帳を持っていると、給付制度を利用し、少ない負担で購入できる場合があります（自治体による）。



### ③補助具について

眼鏡			
有 ・ 無	近視・遠視・乱視・斜視・遮光		作成日
遠距離のもの（黒板等）を見るとき			
機器類	スキル	メイン	メーカー、倍率、個人持ち／学校備品の別等
単眼鏡			
携帯型 拡大読書器			
iPad			
近距離のもの（プリント等）を見るとき			
機器類	スキル	メイン	メーカー、倍率、ライト、個人／学校備品等
スタンプ ルーペ			
スタンド ルーペ			
手持ち ルーペ			
携帯型 ルーペ			
拡大 読書器			
その他			
白杖	常に必要・暗所で使用・慣れない場所で使用・不要		
その他・特記事項			

#### ④教室環境 【記入上の注意事項】

- まぶしさについて…生活の中で感じる明るさは、天候や時間、季節により大きく変わります。まぶしさのある児生の場合、学習に影響があるため、明るさの条件を整えましょう（付録1参照）。
- 最適な明るさ…照度（lux/lx）の異なる条件下で視力評価を行い、最も良い視力値が出た時の明るさを記入します。
- 教室照明、教室内照度…それぞれの条件で測定し記入します。
- カーテン、個別照明…以下を考慮して必要かどうか判断します。
  - \* 文部科学省「学校環境衛生の基準」教室等…最低 300 lx 以上、教室及び黒板の照度…500 lx 以上が望ましい
  - \* 本児の見やすい明るさが 300 lx 以下、または教室内照度の測定値の平均が本児の見やすい明るさを上回る場合は、遮光カーテンが必要です。また、まぶしさのため座席位置を配慮する必要があります。
  - \* 教室内照度の測定値が本児の見やすい明るさを下回る場合、電気スタンド等の個別照明が必要です。アーム式・スタンド式、また LED・蛍光灯・自然光に近い目に優しいもの・調光できるもの…等様々なタイプがあります。合ったものを選びましょう。
- 座席位置…視力、視野、まぶしさをそれぞれ考慮し、総合的に判断します。視力については、付録2「座席位置と視力の関係」を参照しましょう。視野については、「片眼」「視力の左右差が大きい」「視野の左右差が大きい」場合に考慮の必要があります。まぶしさについては上記の通りです。これらを考え合わせ、総合判断を記入しましょう。
- 机…使用する机の種類に○をつけます。弱視児の場合、拡大教材を扱うこと、様々な補助具を机に置く必要があることから、標準より広めで縁のある机が使いやすいとされています。
- 書見台…見るものとの視距離を保ちながら、姿勢が悪くなることを防ぐために、書見台が有効です。（教科書等を）見る時に使うか、書く時に使うか、両方か、○をつけます。
- 黒板・板書…本児が見やすいチョークの色、見やすい文字の大きさを調べます。基本的に、弱視児は瞬時に色を見分けることが苦手であるため、多くの色は使わない方が望ましいです。最近、色覚障害者に配慮された「見やすいチョーク」も市販されていますので、いろいろと試してみましょう。板書の文字の大きさは実際に書いて調べましょう。

## ④教室環境について

まぶしさ・明るさへの配慮			
最適な明るさ	Lux 標準より（明るめ・普通・暗め）が良い		
カーテン	枚	遮光	無・有（3級・2級・1級）
教室照明	LED・蛍光灯	個別照明	不要・無・有（ ）
教室 内 照 度	晴れの日	窓側（ ）lx	カーテンあり（ ）lx
		廊下側（ ）lx	照明あり（ ）lx
	曇りの日	窓側（ ）lx	カーテンあり（ ）lx
		廊下側（ ）lx	照明あり（ ）lx
	雨の日	窓側（ ）lx	カーテンあり（ ）lx
		廊下側（ ）lx	照明あり（ ）lx
座席位置			
視力から		視野から	
まぶしさ から		総合	
机	通常・大きめ・縁有・傾斜	書見台	不要・無・有（見る・書く）
黒板・板書			
見える色	白・黄色・オレンジ・朱赤・赤・ピンク・青・紫・緑		
区別 できる色	2色（ と ）・3色（ と と ）		
文字の 大きさ	見出し（ ）cm角	本文（ ）cm角	

⑤教育課程 【記入上の注意事項】

- 授業時数…当該学年の標準授業時数と、本児の授業時数を記入します。弱視学級在籍児の場合「自立活動」が教育課程に位置づけられているため、「自立活動」の時間の設定にあたり、他教科の授業時数を読み替える場合があります。どの教科を何時間分「自立活動」として設定しているかを記入します。
  - 授業体制…各教科の授業体制について記入します。
    - 教科…該当するものに○をつけます。例 (算数)・数学
    - 教室・形態…弱視学級での一対一の個別授業か、交流学級での一斉授業か、該当する方に○をつけます。
    - 授業担当…授業担当者(MT)の別に○をつけます。
      - 弱担任…弱視学級担任が授業を行う場合
      - 交流担任…交流学級担任が授業を行う場合
      - 専科…専門性のある教員が授業を行う場合。
        - 例：小学校音楽や、中学校で教科免許保有教員が該当教科を担当する場合
      - 教科外…該当免許のない教員が免許外申請を行い授業を担当する場合
        - 例：中学理科の授業を中高数学免許保有の教員が指導する場合等
    - 支援…支援担当者の別に○をつけます。
      - なし…支援の必要がない場合。弱視学級での一対一の授業や、交流学級での一斉授業で補助具の使いこなしレベルが高い場合等。
      - TT…ティーム・ティーチング体制で、MTの他にSTがつき、授業を行う形態の時、STが弱視児の支援もカバーする場合。
        - 弱担任…弱視学級担任が隣につき視覚支援を行う場合
        - 交流担任…交流学級担任が隣につき視覚支援を行う場合
        - 専科…該当免許保有教員が隣につき視覚支援を行う場合
        - 教科外…該当免許のない教員が隣につき視覚支援を行う場合
- \*弱視学級在籍児の場合、全授業時数の1/3以上の授業を弱視学級で受けることが必要と認められた上で学級が設置されています。

## ⑤教育課程について

授業時数									
標準	国 書	算/数 函/美	社 生	理 音	英 外	体 保	家 技	道 総	特 計
本児	国 書	算/数 函/美	社 生	理 音	英 外	体 保	家 技	道 総	特 自 計
自立活動		時間		自立活動 読み替え	【    】	時間→	時間→	時間（減）	
授業体制（弱視学級                  時間          交流学級                  時間）									
教科	教室・形態			授業担当			支援		
国語	弱視学級（1対1）・ 交流学級（一斉授業）			弱担任・交流担任 ・専科・教科外			なし・TT体制・弱担任・ 交流担任・専科・教科外		
算数 数学	弱視学級（1対1）・ 交流学級（一斉授業）			弱担任・交流担任 ・専科・教科外			なし・TT体制・弱担任・ 交流担任・専科・教科外		
生活 社会	弱視学級（1対1）・ 交流学級（一斉授業）			弱担任・交流担任 ・専科・教科外			なし・TT体制・弱担任・ 交流担任・専科・教科外		
理科	弱視学級（1対1）・ 交流学級（一斉授業）			弱担任・交流担任 ・専科・教科外			なし・TT体制・弱担任・ 交流担任・専科・教科外		
英語 外国語	弱視学級（1対1）・ 交流学級（一斉授業）			弱担任・交流担任 ・専科・教科外			なし・TT体制・弱担任・ 交流担任・専科・教科外		
保健 体育	弱視学級（1対1）・ 交流学級（一斉授業）			弱担任・交流担任 ・専科・教科外			なし・TT体制・弱担任・ 交流担任・専科・教科外		
音楽	弱視学級（1対1）・ 交流学級（一斉授業）			弱担任・交流担任 ・専科・教科外			なし・TT体制・弱担任・ 交流担任・専科・教科外		
図工 美術	弱視学級（1対1）・ 交流学級（一斉授業）			弱担任・交流担任 ・専科・教科外			なし・TT体制・弱担任・ 交流担任・専科・教科外		
技術 家庭	弱視学級（1対1）・ 交流学級（一斉授業）			弱担任・交流担任 ・専科・教科外			なし・TT体制・弱担任・ 交流担任・専科・教科外		
総/道 /特	弱視学級（1対1）・ 交流学級（一斉授業）			弱担任・交流担任 ・専科・教科外			なし・TT体制・弱担任・ 交流担任・専科・教科外		
自立 活動	弱視学級（1対1）・ 交流学級（一斉授業）			弱担任・交流担任 ・専科・教科外			なし・TT体制・弱担任・ 交流担任・専科・教科外		

## ⑥教科指導 【記入上の注意事項】

■文房具類…弱視児が使っている文房具の該当するものに○をつけます。

- ノート…使いやすい罫線のものを使用しましょう。  
弱視用（ビジュアルリーズ）、黒い紙のノート等も販売されています。
- 筆記…主にノートに書く時に使用している筆記具に○をします。  
鉛筆の場合、濃さ（2Bなど）を記入しましょう。
- 定規…使用している定規類に○をします。弱視児が使いやすい定規セットとして「大活字」から、大きな字の白黒反転定規セットが販売されています。15cm定規、30cm定規、三角定規、分度器があります。
- マーカー…強調・目印をつける際に使用する筆記用具に○をします。弱視児は蛍光ペンの色が見えなかったり、ペンの細かい色の区別がしにくかったりするため、太さの異なるペンや付箋の方が使いやすいことがあります。

■弱視児がつまずきやすい学習内容

- あらかじめ、各教科で弱視児がつまずきやすいと言われている内容とその対処について挙げてあります。ここでつまずかないよう、あらかじめ対応方法を工夫しましょう。
- 困…実際に本児の学習に困難であった内容について「困」欄に○をつけます。
- 対処・配慮…弱視児の困難への対処・配慮法が簡単に記入してあります。
- 実施…書籍を参照したり、盲学校にアドバイスを求めたりして、困難に対し実際に対処した場合、○をつけます。
- 解決…配慮した結果、弱視児の学習上の困難が解決された場合に○をつけます。

■難しい学習内容

- 実際に授業を行う中で弱視児が直面した見えにくさによる学習上の困難について記入します。

## ⑥教科指導の配慮について

文房具類					
ノート	市販・弱視用・反転	筆記	鉛筆( )・シャーペン・ボールペン・サインペン		
定規	市販・白黒反転・触察	マーカー	蛍光ペン( )・太ペン・色ペン( )・付箋		
弱視児がつかずきやすい学習内容					
教科	内容	困	対処・配慮	実施	解決
国語	漢字の認識 読みの速度 国語辞典		教材工夫・部品別指導 タイコスコープ・付箋 拡大辞書・インデックス		
算数	作図 グラフの読み取り		見やすい文具の使用 ノイズ除去・教材加工		
理科	実験 観察		器具・教材教具の工夫 差し替え・読書器・撮影		
社会	地図の読み取り		拡大図版使用・作り替え		
体育	球技		ボールの工夫・ルール 一部変更・		
家庭	裁縫 調理		便利グッズの使用・ガイ ド設置・手順整理		
難しかった学習内容					
教科	内容	対処・配慮		解決	

## ⑦学校生活 【記入上の注意事項】

### ■困難が予想される内容

- あらかじめ、弱視児がつまづきやすいと言われている内容とその対処について挙げてあります。ここでつまづかないよう、あらかじめ対応方法を工夫しましょう。
- 困…実際に本児の学習に困難であった内容について「困」欄に○をつけます。
- 対処・配慮…弱視児の困難への対処・配慮法が簡単に記入してあります。
- 実施…書籍を参照したり、盲学校にアドバイスを求めたりして、困難に対し実際に対処した場合、○をつけます。
- 解決…配慮した結果、弱視児の学習上の困難が解決された場合に○をつけます。

### ■難しかった内容

- 実際に学校生活を行う中で弱視児が直面した見えにくさによる困難について記入します。





## ⑧自立活動 【記入上の注意事項】

- 目標設定…進路を見据える中で、在学中につけておかなければならない力とそのレベルを確認し、逆算して当該学年中にどこまで達成しておきたいのかを考えましょう。
- 長期目標…在学中に到達したい目標を具体的に記入します。「今年度の目標」欄を参考に、小学校 6 年間（または前半・後半の 3 年間）や中学校 3 年間の長期目標を設定し、記述します。
- 今年度の目標…「単眼鏡」「近用レンズ」「拡大読書器」それぞれのページを参照しながら、現在のレベルを確認し、今年度の具体目標を設定し、○をつけます。
- 単眼鏡訓練…レベルの設定は「教師と親のための弱視レンズガイド」を参考にしています。
- 単眼鏡基礎訓練、応用訓練…年少弱視児を対象としています。小学校 3 年生までに全ての項目を達成できることが望ましいです。
- レベル表記…各レベルの中でも段階がある場合、2-1、2-2…等のように表記しています。
- 書字得点の算出法 通過基準は 25 点以上
  - ①書字率＝（書字数÷総字数）×100
  - ②正答率＝（正答数÷書字数）×100
  - ③正確度＝（①書字率×②正答率）÷100
  - ④書字スピード＝総字数÷書字数
  - ⑤得点＝③正確度÷④書字スピード
- 地図カード類…何度も使えるよう、ラミネートをかける・クリアファイルに挟む等して、ホワイトボードマーカーで行うようにする。
- 教材類・詳しい訓練方法…弱視レンズガイド参照

\*指導方法については、盲学校の支援を適宜活用しながら、計画的に進めていきましょう。

\*学校だけでなく、家庭とも協力し、家でも補助具を使いこなす練習をしましょう。

## ⑧自立活動について

目標設定にあたって		
	学校種別	卒業までに必要な力
進路希望	通常学級 普通高校	配慮のない一斉授業で補助具を使いこなし晴眼児と同じ速度で文字処理を行い、標準学力を保つ
	中学校弱視学級	配慮のある環境の中で、補助具を使いこなしながら自分のペースで文字処理を行い、授業のスピードについていける。標準的学習内容を達成できる。
	盲学校	
長期目標		
今年度の目標	補助具に慣れる・様々な補助具を使う	
	補助具の使いこなしレベルを向上させる	
	レンズを使い、小さなポイント数の文字も読めるようにする	
	読みの速度向上（弱視児平均まで・晴眼児平均まで・それ以上）	
	レンズを活用し拡大率を下げても早く読めるようにする（次年度の拡大教科書のポイント数を下げることができる）	
	自立活動だけでなく授業の中で補助具を使いこなす	
	一斉授業の中で先生の支援を受けながら補助具を使う	
	一斉授業の中で自ら補助具を使いこなし、授業のスピードについていく	
	困った時に補助具を活用し見え方を改善することができる	
困った時に周囲に援助を依頼し環境を改善することができる		
支援のない環境でも補助具を使いこなし晴眼児と同じ速度で文字処理を行うことができ、標準的な学力を保つことができる		

単眼鏡基礎訓練（年少弱視児対象） （開始時 LV            終了時 LV            ）		
Lv.	内容	通過
1 視標の 認知 レンズ 固定 ピント 固定	あらかじめピントを合わせた単眼鏡をスタンドに固定した状態で、5m離れた黒板に提示した文字カードや絵カードやランドルト環（以下視標）を答えることができる *文字カード…7cm×7cmの厚紙に4.5cmの字 *絵カード…B6の紙に輪郭0.8mm、細部0.2mmの黒サインペンで描いた動植物等の絵。 *ランドルト環…認知可能な最小の視力値の80% *黒板からの距離…ランドルト環は5m、文字・絵カードの場合は認知可能な最大距離の80%	
2 手持ち ピント固定	手に持ったピント合わせ済みの単眼鏡で、黒板の決まった位置に提示された視標を見て、4秒以内に正答できる *ピントが合っているかどうか、指導者が一緒に確かめる	
3 フラッシュ	手に持ったピント合わせ済みの単眼鏡で、指導者が様々な位置に提示する視標を見て、4秒以内に正答できる	
4 手持ち ピント 操作	手に持った単眼鏡で、黒板の決まった位置に提示された視標を見て、自分でピントを合わせ、6秒以内に正答できる *ピントは最も遠い位置か最も近い位置からスタート *あらかじめ視標を提示しておき、単眼鏡も目にあてておき、「用意ドン」でピントを回しはじめる	
5 フラッシュ	単眼鏡で、黒板の決まった位置に次々に10枚提示される視標を見て、自分でピントを合わせ、30秒以内に正答できる	
6 フラッシュ	単眼鏡で、黒板の様々な位置に次々に10枚提示される視標を見て、自分でピントを合わせ、40秒以内に正答できる	
7 動体認知	ピント合わせ済みの単眼鏡で、毎秒2～3m横に動く（指導者が胸の前に提示したまま歩く）視標を見て、3秒以内に正答できる	
8 動体認知	単眼鏡で、横に動く視標を見て、自分でピントを合わせ、4秒以内に正答できる	
9 フラッシュ	単眼鏡で、横移動しながら次々に10枚提示される視標を見て、自分でピントを合わせ、30秒以内に正答できる	
10 動体 ピント操作	単眼鏡で、10m離れた位置からだんだん近づいてくる視標を見て、自分でピントを合わせ、3m以上残して正解できる	

単眼鏡応用訓練（年少弱視児対象） （開始時 LV            終了時 LV            ）		
Lv.	内容	通過
1 単語読み	指導者が対象児と一緒にピントを合わせ、板書された単語を1文字1秒以内の速度で読むことができる	
2 短文読み	指導者が行を指定し、縦書き・横書きの短文を1文字あたり0.6秒以内の速度で読むことができる *1文字8cm角、文字間3~4cm、行間15cm程度 *1行に7~10文字、10行程度	
3 板書書写 図形	指導者が板書し始めるのと同時に、手用の用紙に10秒以内に図形を写すことができる *図形は10~15cmの大きさの単純なもの	
4 板書書写 単語	指導者が板書し始めるのと同時に、手用の用紙に10秒以内に単語を写すことができる *単語は1文字8cm角、3~6文字程度で、拗音・濁音を含むもの	
5 板書書写 数式	指導者が板書し始めるのと同時に、手用の用紙に10秒以内に数式を写すことができる *小学1年生の対象児に対し、1文字10cm角の大きさの1位数の足し算・引き算	
6 文章読み	2~3行単位の5つくらいの文章を1文字0.6秒以内の速度で読むことができる *1文字8cm角、文字間3~4cm、行間15cm程度 *1行に7~10文字、10行程度	
7 50文字	1文字6~8cm角で板書された20文字~50文字程度の文章をノートに写し、「書写得点」25点以上獲得できる。	
8 80文字	1文字6~8cm角で板書された50文字~80文字程度の文章をノートに写し、「書写得点」25点以上獲得できる。	
9 複雑な板書	小学校1、2年生の算数・生活等の教科書の中の図や表を正確にノートに写すことができる。	
10 交通機関	バス・電車の行き先、信号などを単眼鏡で読み、実際の場面で活用できる。	

単眼鏡広視野空間探索訓練 (開始時 LV 終了時 LV )		
Lv.	内容	通過
1 直線たどり	(スクリーン) 3m 離れた位置から、直線で結ばれた線をたどって2つの語句を6秒以内に読むことができる。 * 映写時 1文字 10cm 角、左右の語句間 100cm、上下の語句間 30cm、線の太さ 1cm * 交差なしと交差ありの2パターンで行う	
2 線追跡運動	(スクリーン) 3m 離れた位置から、直線や曲線で結ばれた線をたどって全ての文字を読むことができる。 2-1 交差なし 線の全長 5m 5文字 8秒 2-2 交差なし 線の全長 10m 9文字 2-3 交差あり(1~2か所) 線の全長 10m 9文字 2-4 交差あり(4~5か所) 線の全長 15m 12文字 * 線の太さ 1cm、円の直径(内径) 10cm	
3 絵カード探し	3m 離れた位置から、黒板に貼られた絵カードを見て、同じもの3枚を見つけることができる。 3-1 10枚 13~20秒 3-2 15枚 14~20秒 3-3 20枚 16~20秒 * 輪郭 0.8mm、細部 0.2mm のペンで描いた動植物等	
4 数あて	(スクリーン) 3m 離れた位置から、スクリーンに映った黒点の数を答えることができる。 * 黒点の大きさ 3cm	
5 大型図形認知	(スクリーン) 3m 離れた位置から、スクリーンに映った大型図形を見て手元の5枚の選択カードから正解を選ぶことができる。 5-1 難易度 A 10~15秒 5-2 難易度 B 15~20秒 5-3 難易度 C 20~30秒	
6 大型図形完成	(スクリーン) 3m 離れた位置から、スクリーンに映った大型図形を見て手元の一部欠けた未完成の図形に線を引いて完成させることができる。 6-1 難易度 A 6~8秒 6-2 難易度 B 7~10秒 6-3 難易度 C 8~15秒	

7 数あて	<p>(スクリーン) スクリーンに映った不規則に配置され曲線で囲まれた要素の数を正しく答えることができる</p> <p>7-1 黒点 (直径 3cm) のみ 6~10 秒</p> <p>7-2 地図記号・算数記号・音楽記号等 (10cm 角) の中から 2 要素 8~15 秒</p> <p>7-3 地図・算数・音楽記号等 3 要素 9~20 秒 * 囲み線…実線 (太さ 1cm、長さ 6~8.5m)</p>	
8 絵地図要素探し	<p>(スクリーン) 1m の距離からスクリーンの絵地図を見て、手元の一部欠けた地図の該当箇所を答えることができる</p> <p>* 文字の大きさ 3cm 角 20~60 秒</p>	
9 地図上位置関係の把握	<p>(スクリーン) 1m の距離からスクリーンの地図上の指定された 3 点を見て、手元の選択図形カードから正しいカードを選ぶことができる</p> <p>* 120~150 秒</p>	



近用弱視レンズ基礎訓練（年少弱視児対象） （開始時 LV          終了時 LV          ）		
Lv.	内容	通過
1 う環の認知	書見台に提示された訓練カードに「用意ドン」で弱視レンズを素早くカードまで持っていき 2.5 秒以内に答えられる	
2 文字の認知	書見台に提示された、ひらがな（5p）カタカナ（5p）漢字（8p）のカードを見て、2 秒以内に答えられる *カードの大きさ 7cm 角	
3 単語読み	書見台に提示されたひらがなカードを 1 単語あたり 2.5 秒で読むことができる * 5 p 単語カード（2～4 文字）100 枚、7cm 角 * 10 単語 1 セット、1 回 6～7 セット実施	
4 短文読み	書見台に提示された縦書きおよび横書きの短文カードを 1 文字あたり 0.4 秒ペースで読むことができる * 8 p 短文カード（20～50 文字） * 10 枚 1 セット、1 回 3～4 セット実施	
5 文章読み	書見台に提示された文章カードを 1 文字あたり 0.4 秒ペースで読むことができる * 10p 文章カード（100～150 文字） * 3 枚 1 セット、1 回 2～3 セット実施	
近用弱視レンズ応用訓練（年少弱視児対象） （開始時 LV          終了時 LV          ）		
Lv.	内容	通過
1 読書	書見台に提示された文章カードを 1 分間 120 文字ペースで読むことができる * 10p（100～150 文字）の物語文 * 1 分間の読字数と 1 文字あたりの読字時間を測定する	
2 文章書写	書見台に提示されたカードを見てノートに書き写し、書写得点 25 点以上とれる * 10p（60～70 文字）	
3 小さな視物の視認	教科書の小さな複雑な図・写真や日常存在する小さな事物を見て素早く認知し、80%以上正答できる * 正答率＝（正答数÷質問数）×100	



近用弱視レンズ広視野空間探索訓練 (開始時 LV 終了時 LV )		
Lv.	内容	通過
1 直線たどり	<p>「用意ドン」で左から右に線をたどって読むことができる。</p> <p>1-1 交差なし 10枚 4~6秒 1-2 交差あり 30枚 3~6秒</p> <p>*B4用紙 文字の大きさ5p 文字数5~10文字 線の長さ28~35文字 語句の間隔5cm</p>	
2 線追跡運動	<p>「用意ドン」で線端の黒丸から線をたどって文字を次々に読むことができる。</p> <p>2-1 交差なし 線の全長80cm 5文字 8~15秒 2-2 交差なし 線の全長150cm 9文字 15~20秒 2-3 交差あり(1~2か所) 線の全長150cm 9文字 12~15秒 2-4 交差あり(4~5か所) 線の全長250cm 12文字 15~20秒</p> <p>*文字の大きさ5p、線の太さ0.5cm、円の直径7mm</p>	
3 文字カード探し	<p>1cm間隔に横5枚ずつ並べた文字カードを見て、同じ字3枚を見つけることができる。</p> <p>3-1 10枚 8~15秒 3-2 15枚 10~15秒 3-3 20枚 15~20秒</p> <p>*文字の大きさ5p、用紙5cm角</p>	
4 数あて	<p>「用意ドン」でB5の紙に書かれた黒点の数を6~10秒以内に数えることができる。</p> <p>*黒点の大きさ 直径1mm、数5~10個</p>	
5 要素むすび	<p>「用意ドン」でB4用紙に描かれた要素を見て、同じ要素同士を正しく線で結ぶことができる。</p> <p>5-1 3要素(同要素2つ1組で3組+別要素1、合計7個) 交差なし 線の全長50~60cm 25~35秒 5-2 5要素(同要素2つ1組で5組+別要素1、合計11個) 交差あり(結んだ線のうち2本が1点で交差) 線の全長 75cm~85cm 60~90秒</p> <p>*要素 地図記号・算数記号・音楽記号等 要素の大きさ2mm角</p>	

<p>6 大型図 形完成</p>	<p>訓練カードを見て手元の一部欠けた未完成の図形に線を引いて完成させることができる。</p> <p>6-1 難易度 A 図形の全長 75~85cm 2~3 秒          6-2 難易度 B 図形の全長 100~110cm 2~4 秒          6-3 難易度 C 図形の全長 110~120cm 7~9 秒          * 図形完成用紙 (手元) 訓練図形の 4 分の 1 程度の大きさの同図形を一部分 3cm 程度消したもの</p>	
<p>7 数あて</p>	<p>「用意ドン」で B4 用紙に描かれた指定された要素の数を正しく数えることができる。</p> <p>7-1 黒点 (直径 1mm) 要素の数 5~10 6~10 秒          7-2 地図記号・算数記号・音楽記号等 (2mm 角) から 2 要素 要素の数 1 つにつき 5~10 20~25 秒          7-3 地図・算数・音楽記号等 3 要素 要素の数 1 つにつき 5~10 25~35 秒          * 囲み線…実線 (太さ 1mm、長さ 100~150cm)</p>	
<p>8 地図上 線たどり</p>	<p>「用意ドン」で地図上の指示された線 (海岸線、鉄道、県境など) を 1cm あたり 3~7 秒でたどることができる。</p> <p>* 地図カード…小学校社会科地図帳基本図から縦横 2° × 3° または 3° × 2° の範囲を切り抜いたもの          * たどる線の長さ 海岸線 5~25cm、鉄道 5~15cm、県境 10~40cm</p>	
<p>9 地図要 素探し</p>	<p>「用意ドン」で地図上の指定された記号を全て探すことができる</p> <p>9-1 大都市名 1 つ 30~50 秒          9-2 小都市名 1 つ 60~100 秒          9-3 記号 1 種類 3 つ 40~60 秒          9-4 上記要素から 2 種類計 3 つ 70~85 秒          9-5 上記要素から 3 種類計 3 つ 60~85 秒</p>	
<p>10 地図上 線結び</p>	<p>「用意ドン」で地図上の指定された 2 地点の都市を線で結ぶことができる</p> <p>10-1 大都市間 3~7 秒          10-2 小都市間 16~20 秒</p>	
<p>11 地図探 索</p>	<p>(スクリーン) 1m の距離から単眼鏡で地図を見て、手元の一部欠けた地図カードの欠けている部分を近用弱視レンズを用いて 3 分以内に見つけることができる</p> <p>* 25 万分の 1 の地方図 縦 9cm 横 12cm</p>	

拡大読書器訓練 (開始時 LV 終了時 LV )		
Lv.	内容	通過
1 基本操作	倍率ボタン・モード切替ボタン・コントラスト調整ボタン・ライトの操作方法がわかり、モニタを見たまま手元を見ずに指示された操作を行うことができる	
2 読み基礎	台を操作し、3秒以内に指示された絵をモニタ中央に映す *A4 四隅と中央に触知できるシール	
3 線追跡 運動	線をたどって、線で結ばれた文字を読むことができる 3-1 文字数4 (四隅) 交差なし 直線 4秒 3-2 文字数6 異なる線種の交差あり 直線 4秒 3-3 文字数10 交差あり 曲線混じり 4秒	
4 数かぞえ	台を押しなく横もしくは縦にまっすぐ動かし、記号の数を数えることができる 4-1 単記号 7~10個 行間一定 4秒 4-2 単数記号 7~15個 行間不定 4秒 4-3 複数記号 7~15個 行間不定 4秒	
5 点つなぎ	モニタを見たまま線をたどったり点をつないだりすることができる 4-1 横・縦点線たどり 10本 1本3秒 4-2 点つなぎ 点幅5cm 交差なし 15秒 4-3 点つなぎ 点幅15cm 交差なし 20秒 4-4 点つなぎ 点幅適宜 交差あり 20秒	
6 書き基礎	マスのある用紙に手本を見ながら単語や短文を写し、「書写得点」25点以上獲得できる	
7 書写	50文字~80文字程度の文章をノートに写し、「書写得点」25点以上獲得できる。	
8 読書	2~3行単位の5つくらいの文章を1文字0.6秒以内で読書できる	
9 複合操作	教科書の小さな複雑な図・写真や日常存在する小さな事物を見て素早く認知し、80%以上正答できる *正答率=(正答数÷質問数)×100	
10 授業での活用	一斉授業の中で、自分で判断して教科書やプリントの細かい文字や絵を適切な倍率・モードで見、授業に参加することができる	

## ◎障害理解 【記入上の注意事項】

### ■自分の見えにくさの理解

あてはまる欄に○をつけます。

視覚の限界があることについて、人に援助を依頼し、自分の環境を変えていく力は、社会生活を送る上で必要となってきます。自分の障害を理解し、人に伝えられるように、少しずつ取り組んでいきましょう。

### ■周囲の友だちの理解

あてはまる欄に○をつけます。

弱視児が円滑な学校生活を送るためには、周囲の友だちにも本児のことを正しく理解してもらうことが必要です。道徳や総合的な学習の時間で、交流学級への障害理解指導に取り組むのも良いでしょう。

### ■周囲の大人の理解

あてはまる欄に○をつけます。

担任…弱視児の直接の担当者

教科担任…授業担当教諭、交流学級担任

学年…学年職員

特支…特別支援教育コーディネーター等

全体…職員全体

保護者…年度当初に「ひとみ」を見て項目を確認し、必要な事項は聞き取りましょう。

弱視児の担任の先生だけでなく、交流学級の担任の先生や、授業を担当する先生、学年、学校全体の先生、そして一番身近な保護者の理解が大切です。

この「ひとみ」を見ながら、視覚状況や学習の状況、補助具の使いこなしレベル等を正しく把握し、共通理解したうえで日々の指導にあたりましょう。

## ⑨障害理解について

自分の見えにくさの把握	
自分は人より見えにくい（目が悪い）とわかっている	
学習場面で、どういう時に見えにくいのかわかっている	
生活場面で、どういう時に見えにくいのかわかっている	
見えにくい時に、補助具を使うと見え方が変わることを知っている	
見えにくい時に、どの補助具を使えばいいのかわかる	
見えにくい時に、自分で補助具を取り出して使うことができる	
いつも補助具を携帯している	
見えにくい時に、先生に「見えにくい」と伝えることができる	
見えにくい時に、先生や友だちに援助を求めることができる	
自分の見え方を、先生や友だちに説明することができる	
見えないためにできないことと、力不足でできないことを区別できる	
周囲の友だちの理解	
本児が目が悪いことを知っている	
補助具の使用や拡大教材（みんなと違うこと）をからかわない	
本児が「見えないためにできなかったこと」をからかわない	
本児が困った時、本児や先生から求められれば配慮できる	
本児が困った時、求められなくても自分から配慮できる	
本児への配慮が過剰でなく適切である	
周囲の大人の理解	
本児の見え方を理解している（担任・教科担任・学年・特支・全体・保護者）	
学習上の配慮を理解している（担任・教科担任・学年・特支・全体・保護者）	
生活上の配慮を理解している（担任・教科担任・学年・特支・全体・保護者）	
補助具の指導を理解している（担任・教科担任・学年・特支・全体・保護者）	

## ⑩盲学校の支援の記録 【記入上の注意事項】

### ■訪問・メール・電話等による支援

盲学校による支援を受けた際、日付・支援の種類（訪問・メール・電話）内容を記録しておきましょう。保護者に伝わるような表現を心がけて書きましょう。

「コーディネーター派遣申請」や「訪問支援シート」を添付しておきましょう。

年度末に、支援の合計回数を記入しましょう。

\*内容詳細は、「訪問支援シート」の添付に代えてもかまいません。

例) 4月26日(金) 5・6校時 訪問支援

- ・視機能評価（視力・視野・色覚・眼球運動）をしてもらいました。まぶしさが強いことがわかり、交流学級の座席位置についてアドバイスを受け、窓側から廊下側に移動しました。

### ■サマースクール・合同学習会への参加時の様子

参加した日付・内容・写真などを記録しておきましょう。保護者に伝わるような表現を心がけて書きましょう。

サマースクールについては、担任が不参加だった場合、児童・保護者への聞き取りや、盲学校に問い合わせをして記入しましょう。

年度末に、合計参加回数を記入しましょう。

例) 10月16日(火) 秋の合同学習会

- ・仲間作り・音楽活動

最初は少し緊張気味でしたが、自己紹介や体操をして、すぐに友だちと打ち解けました。絵譜の中の○印に自分の色を塗りました。はみださないように注意しながら…

### ■盲学校担当者より

年度末に、盲学校担当者に、本人・保護者向けのコメント執筆を依頼しましょう。

⑩盲学校の支援の記録について

訪問・メール・電話等による支援（計 回）

月 日（ ）

サマースクール・合同学習会への参加時の様子（計 回）

盲学校担当者より

⑪ その他・特記事項・担任より 【記入上の注意事項】

■ その他・特記事項

ここまでの10項目以外に特記すべき事項がある場合、記入します。

記入する項目の例

「諸検査の記録」…フロスティック視知覚発達検査、発達検査、  
知能検査等

「その他の障害」…肢体不自由や知的障害、発達障害等、合わせ  
有する障害がある場合、障害名・部位や程度、  
手帳の有無や学校生活上の配慮事項、連携機  
関等について記入します。

「関係機関」…関わりの深い医療機関・連絡先・担当者名や、  
幼少期の支援を担当

■ 担任より

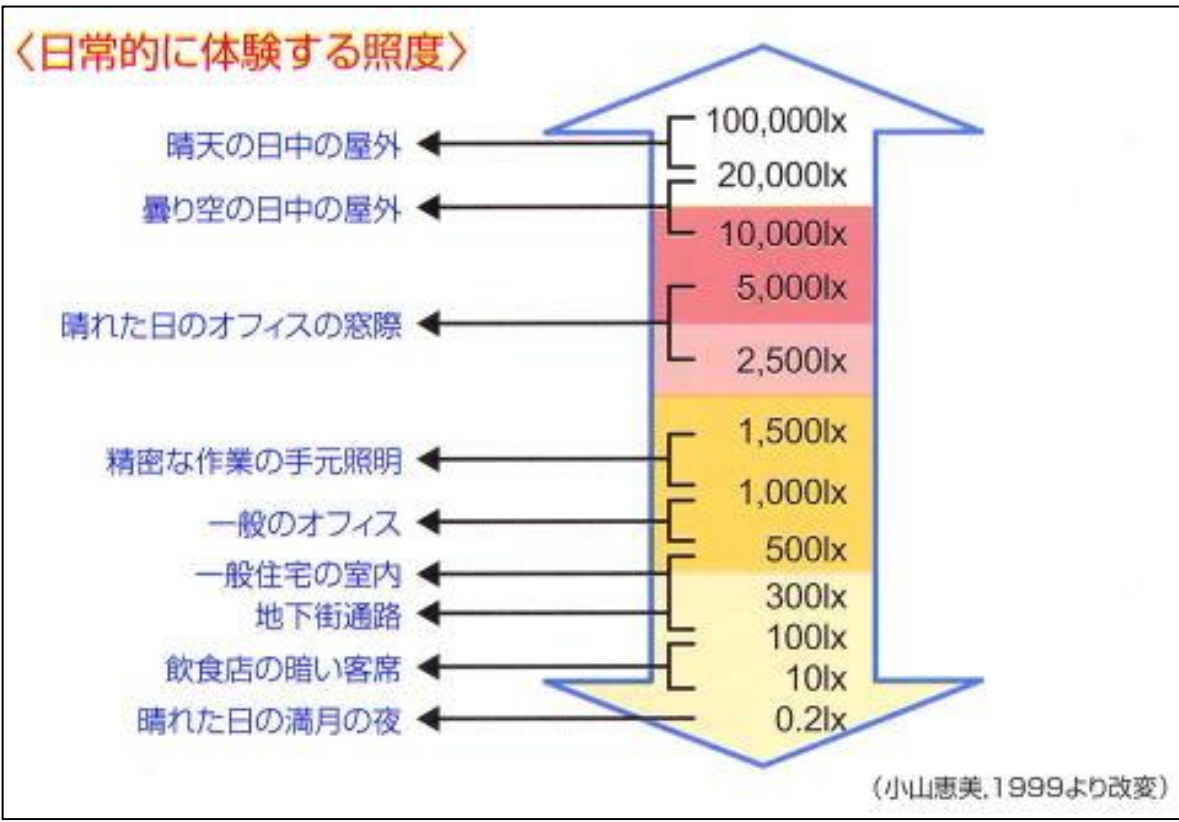
年度末に、1年間の視覚状況や学校生活、教科学習における視覚  
の活用状況、自立活動の様子等を振り返って記入しましょう。保護  
者・本人に宛てた表現を心がけましょう。



⑪その他・特記事項について

担任より

付録1 日常的に体験する照度



付録2 座席位置と視力の関係

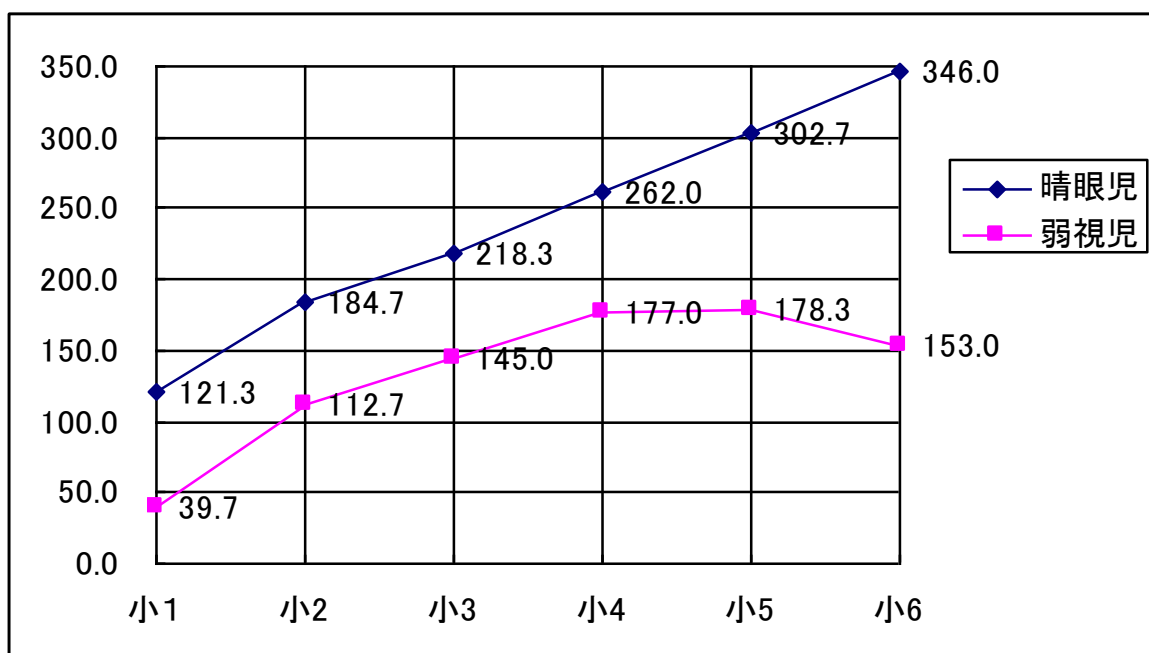
座席の位置	視力		0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.2
	文字の大きさ		未満										
前列 3m	濃	大 10cm2	△	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		中 7.5cm2	▲	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		小 5cm2		△	△	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
	淡	大 10cm2		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		中 7.5cm2		△	△	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
		小 5cm2				○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
中列 5m	濃	大 10cm2		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		中 7.5cm2				○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		小 5cm2						○	○	◎	◎	◎	◎
	淡	大 10cm2			△	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		中 7.5cm2				○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
		小 5cm2								◎	◎	◎	◎
後列 7m	濃	大 10cm2			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		中 7.5cm2				○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
		小 5cm2								○	○	◎	◎
	淡	大 10cm2				○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
		中 7.5cm2								◎	◎	◎	◎
		小 5cm2								○	○	○	◎

凡例】 ▲見えにくい者が多い。 △見える者があるが過半数は占めない。

○見える者が過半数を占める。 ◎見える者が9割を占める。

引用文献 樋渡亮(1963):学校における視力対策,日眼,67,pp.930-939.

付録3 弱視児の読書速度



## 付録4 弱視学級にあると良い備品・消耗品類

### 補助具類

- ・単眼鏡
- ・近用弱視レンズ
- ・拡大読書器

### 検査器具類

- ・ランドルト環単独視標（5m・30cm）
- ・照度計

### 教室備品

- ・調光器付き照明
- ・遮光カーテン
- ・机（広め・縁のあるもの）
- ・書見台
- ・移動式黒板・ホワイトボード等

## 付録5 参考になる書籍

- 「見えにくい子どもへのサポート Q&A」読書工房
- 「視力の弱い子どもの理解と支援」教育出版
- 「小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援」教育出版
- 「教師と親のための弱視レンズガイド」コレール社
- 「新・視覚障害教育入門」ジアース教育新社
- 「視覚障害教育に携わる方のために」慶應義塾大学出版社
- 「視覚障害児・者の理解と支援」北大路書房
- 「視覚障害教育入門 Q&A 新訂版」ジアース教育新社
- 「視覚障害教育の基本と実践（特別支援教育のエッセンス）」慶應義塾大学出版  
社
- 「視覚障害教育領域 見えの困難への対応」建帛社

## 雑誌

- 「視覚障害教育ブックレット」ジアース教育新社